

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和4年 6月 1日 第3号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



敵にあらず

校長 鮫島 弘樹

昔から語り継がれてきた諺(ことわざ)には、今の人が聞いてもピンとこないものが少なくありません。「敵に○を送る」の「○」には何が入るのでしょうか？

敵に花を送る→これはこれで素敵交流に思えますが、正解ではありません。

敵に城を送る→かなりの太っ腹です。

正しくは「敵に塩を送る」です。初めて目にする人にとっては「？」でしょう。

由来は戦国時代にあるそうです。武田信玄が治めていた現在の山梨県辺りでは、生活必需品である塩を、海に面した東海地方から手に入れていました。ところが、東海地方で勢力を築いていた今川氏真という人が中心となり、ライバルである武田信玄が治める地方への、塩の販売を禁止してしまいました。

人は、塩がないと生きていけません。それを聞いた、別のライバルである上杉謙信は、自身が治めていた現在の新潟県の商人に命じて、武田領に適正な価格で塩を販売させたそうです。

なぜ、争っている敵を助けるようなことをしたのでしょ

うか。「我々の争いは、武力の争いであり、生活に必要な物資の争いではない」と言って、ライバルに対しても、生命に欠かせない塩を販売させたそうです(これが本当の話かどうかは諸説あるようです)。

東京五輪の少し前に行われた東京マラソンは、オリンピックの日本代表を決める選考レースでもありました。代表入り

の有力選手としてこの大会に臨んだ大迫傑選手は、スタートから5キロの給水地点でボトルを取り損ねてしまいます。大迫選手が、近くを並走する外国人の選手に声をかけたところ、その選手は自分が給水したボトルを大迫選手に手渡して、ドリンクを分けてあげたというのです。

マラソンの世界で、時々このような話を聞くことがあります。その根底にあるのは、「お互い力を出し切って、正々堂々と戦いたい」という思いなのでしょう。

さて、スポーツで戦うのは「敵」なのでしょうか。「敵」という言葉を聞くと、「自分たちが恨(うら)んでいる存在なので、やっつけなければならない」といった意識を持ってしまいそうです。

私は、スポーツで戦うのは敵ではなく「相手」なのだと思います。

間もなく、運動部の生徒は学校総合体育大会を迎えます。3年生にとっては、全国大会まで通じる最後の大会となります。試合となれば、「何としても勝ちたい」という気持ちを持って、全力を振り絞るものです。しかし、ひとたび試合が終われば、他校の選手であっても同じスポーツを楽しむ仲間であり、お互い正々堂々と戦った仲間です。

第四中から出場する各種目の選手たちには、そのような考え方で、相手を尊重しながら全力で戦い、勝っても負けても清々しい気持ちで終わられる大会にして欲しいと思っています。